



2020～2021 年度
国際ロータリーのテーマ

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30～13:30
- ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3階
- ◆会長 / 黒澤 明男
- ◆副会長 / 小林 秋生
- ◆幹事 / 加藤 輝男
- ◆広報・情報委員長 / 朝倉 俊次

NO. 1509 令和2年11月24日



◆点鐘	黒澤 明男 会長
◆SAA	望月 完 委員

【会長挨拶】 黒澤 明男 会長

先週は奉仕プロジェクト委員会の設営による職場例会で「こもろ布引いちご園」を訪問させていただきました。倉本社長・専務はじめスタッフの皆様には大変お世話になりました。ロータリアンでなければ拝見できない体験をさせていただき感謝申し上げます。これからいちごを食べるとき、今迄と違った苺に対する接し方が変化しました。生産者の努力によって仕上がった優しい、心安らぐ<いちご>を良く味わって食したいと思えます。

本日はロータリー財団月間で小池委員長より話があります。財団への協力よろしくお願いします。

【幹事報告】 橋詰 希望 副幹事

1. 関 邦則パストガバナーより研修テキスト「The Rotary Motivation」
2. 週報

小諸、佐久、佐久コスモス、上田六文銭RC

【本日の配布物】

週報 1507、1508 号、The Rotary Motivation、理事会報告、2020～2021 年度下半期プログラム予定表、クリスマスプレゼント案内

◆出席報告 小山 等 委員

会員数	21名	出席義務者	21名	免除者	0名
本日	出席	16名	事前 MU	4名	76. 19%
前々回(11/10)	MU	0名			80. 95%

◆ラッキー賞

NO. 12 田中 陽介 君

◆ニコBOX 田中 陽介 委員

黒澤 明男君	ロータリー財団・米山記念奨学会について、改めて学習させていただきます。小池委員長よろしくお願いします。
小林 秋生君	季節の変わり目、風邪、インフル、コロナに気を付けて師走を迎えたいと思います。
橋詰 希望君	先週、こもろ布引いちご園の倉本社長からラッキー賞を選んで頂きました。小池先生ロータリー財団と米山記念奨学会事業についてのご説明ありがとうございます。
望月 完君	結婚祝の綺麗なお花が届きました。心を新たに生活していきたいと思えます。
小池平一郎君	委員長の役目から卓話をさせていただきます。ご寄付をよろしくお願いします。
小山 等君	R財団・米山」のお話を小池先生からよくお聞きして勉強したいと思います。夜の無尽会も楽しみにしております。
田中 陽介君	異例づくめの一年がもうすぐ終わろうとしています。早く「普通」の日常が戻りますようにお祈りいたします。

次週のプログラム:

12月1日 クラブ協議会「年次総会」

次々週のプログラム:

12月8日 休会(コロナ感染防止)

【本日のプログラム】「ロータリー財団月間によせて」

ロータリー財団・米山記念奨学会委員会 小池平一郎 委員長



(公財)ロータリー米山記念奨学会(Rotary Yoneyama Memorial Foundation, Inc.)

ロータリー米山記念奨学会事業とは

ロータリー米山記念奨学会事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を税源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することが事業の使命です。

その歴史は60年以上前に坂のぼります。平和を愛し、青少年に手をさしのべた“日本ロータリーの父”米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として、1952年、東京ロータリークラブは、海外からの留学生を支援する国際奨学事業を始めました。やがてそれは、日本全国のロータリークラブの共同事業として発展し、1967年に文部省(現文部科学省)を主務官庁とするロータリー米山記念奨学会が設立されました。50有余年の歴史を持ち、世界に見ない日本ロータリー独自の他地区合同奉仕活動となっています。

米山記念奨学会の特色

一番の特徴は、その規模です。米山奨学生の採用数は、2017年は793人。総事業費は13億円(2016-17年度決算)でした。世界規模で展開しているロータリー財団国際親善奨学生の年間採用数とほぼ同じです。これだけの外国人留学生を支援している奨学団体は、事業規模・採用数とも日本国内では民間最大です。これまでに支援した奨学生数は累計19,808人(2017年7月現在)、その出身国は、世界124の国と地域に及びます。米山学友(元米山奨学生)は韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、韓国・台湾の画に就任した人など、世界中で活躍しています。

世話クラブ・カウンセラー制度

米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

世話クラブとは？

日本には約2,300のロータリークラブがあります。そのうち1つのクラブが、1人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席し、ロータリー会員と積極的に交流し、国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。

事業のあゆみ

- 1952 東京RCが奨学事業の構想を立案
- 1953 「湯根山基金」の募金開始
- 1954 奨学正第1号のソムチャード氏がタイより来日
- 1957 新組織「ロータリー米山奨学委員会(委員長:小林雅一氏)を結成
- 1958 新組織初の奨学生8人を採用
- 1959 世話クラブ制度設置
- 1960 「ロータリー米山記念奨学会」と改称
- 1967 「財団法人ロータリー米山記念奨学会」設立
- 1971 カウンセラー制度設定
- 1972 米山功労者制度の設定
- 1978 特別寄付金への免除措置の認可を得る
- 1983 台湾米山学友会(扶輪米山会)正式発足

- 1985 国内初の米山学友会(関東)が誕生
- 1989 4月採用から元ロータリー所在国からの留学生へ門戸を開く ・韓国米山学友会正式発足
- 1999 4月採用から全ての国・地域が対象となる
- 2001 日本政府から留学生交流功労団体として表彰される
- 2002 4月採用から指定校・大学推薦制度を全国で施行
- 2004 RI理事会で米山記念奨学事業が賞賛を受ける
- 2005 制度改編・新泥土発足「現地採用奨学金」「地区奨励奨学金」
- 2007 日本全地区によるロータリーの多地区合同奉仕活動としての手続が完了
- 2008 ホームカミング制度のスタート
- 2009 中国米山学友会設立
- 2010 中国・韓国の学部生に応募資格が与えられる
- 2012 「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」となる ・タイ米山学友会設立
- 2013 よねやま親善大使制度スタート ・ネパール米山学友会設立
- 2014 モンゴル米山学友会設立
- 2016 ソウル国際大会にブース出展、初の分科会開催 ・スリランカ米山学友会設立 ・マレーシア米山学友会設立
- 2017 ミャンマー米山学友会設立 ・財団設立 50周年
- 2018 財団設立 50周年記念式典

ロータリー財団の歴史

- 1917 当時の会長アーチフランクが「世界でよいことをする」ための基金を作るというビジョンを発表
26ドル 50セントの寄付でスタートした
- 1928 国際大会でロータリー財団と名付けられた
- 1930 財団が国際障害児協会に 500ドルの補助金を授与。ポールハリスたちが援助しエドガーFアレンがイースターシールズEaster Sealsを設立
- 1931 信託組織となり、1983年イリノイ州の法令の下、非営利財団法人となった
- 1747 ポールハリス逝去後、「追悼は献花ではなく財団への寄付」というハリスの遺志がロータリアンに伝えられた
- 1957 ポールハリス・フェロー認証プログラムを創設
- 1965 「マッチング・グラント」プログラム開始 GSEを創設
クラブと地区のプロジェクトに補助金を提供
- 1978 大規模な人道的取組を加納とする。「保健・飢餓追放および人間尊重(3-H)補助金プログラム」を創設
- 1979 フィリピンで 600万人の児童へのポリオ予防接種活動を開始
- 1980 経口ポリオワクチンの開発者アルバート・セービン博士とロータリー4 が共にポリオ撲滅に取り組み始める
- 1981 財団が恒久基金を設立
- 1985 ポリオプラス・プログラムを創設
- 1988 数年間にわたるポリオプラスキャンペーンで 2億 4700万ドルを募金。世界保健総会が世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を創設
- 1999 ロータリー平和センターの設立
- 2004 250,000ドル以上の寄付者認証プログラム「アーチ・フランク・ソサエティ」設立
- 2007 ビル&メリンダ・ゲイツ財団が 1億ドルのチャレンジ補助金を授与
- 2013 グローバル補助金と地区補助金の 2種類の補助金モデルを導入
グローバル補助金は地域のニーズ調査に基づいて持続可能な成果をもたらす大規模なプロジェクトを支援
- 2016 7月1日に財団創立 100周年のイベントなどを開始

【地区補助金の仕組み】

地区補助金制度は、財団の使命に該当する活動を支援するために、ロータリー財団本部より地区に対して一括で支払われる補助金制度である。地区は、各クラブが申請した奉仕プロジェクトの内容を審査し、財団本部に一括申請し、承認を受けた後に財団本部から受領した地区補助金を各クラブに配分する。地区は、補助金の申請ならびに各クラスが行う補助金事業の報告について、「ロータリー財団 地区補助金とグローバル補助金 授与と受諾の条件」(以下では「授与と受諾の条件」と略記)に適合しているか否かを審査し、不正があれば財団本部に報告して、その裁断を仰がなければならない。地区補助金の原資は、3年前に地区からロータリー財団に納入した年次寄付の一部がその運用を経て地区に還元されたものである。